INTERNATIONAL & INFORMATION STUDIES

新潟国際情報大学

[本校] 〒950-2292 新潟市みずき野 3-1-1
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690
[新潟中央キャンパス] 〒951-8068 新潟市上大川前通 7-1169
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117
http://www.nuis.ac.jp somu@nuis.ac.jp
平成18年1月10日 発行

Vol.29

学報
国際・情報

新しい年に新しい覚悟で

学長 武藤 輝一

新しい年を迎え、皆さんそれぞれに新しい覚悟をお持ちのことと存じます。

平成19年春の全国の大学入試受験者数と大学側の学生受け入れ者数とは同数になると予想されています。しかし、希望の大学に入れなかった場合、改めて次年度再挑戦しようとする人も少なくないでしょうから、当然、入学者数が定員数を割る大学もあるでしょう。平成17年春の私立（4年制）大学の新入学生受け入れについて、29・5%の大学で定員数の不充足が見られているのですから由々しき事態であります。新潟国際情報大学ではこのような経験は全くありませんが、すべての卒業生が自分に適した企業、機関などに就職して、あるいは希望の大学院に進んで、本学在学中に大変役立つ、かつ優れた教育を受けて良かったと思える教育に、よりいっそう力を入れなければと考えております。

本学在学中のインターンシップは早くから情報システム学科において始まり、現在では情報文化学科においても実施され、昨年からは学科目の一つとしてキャリア開発教育が実施されています。すべての学生諸君が、在学中に自分というものをしっかりと認識し、自らの長所、欠点を知り、平素長所を伸ばし短所を改める努力を続ける中で、自分で将来どのように生きて行こうとするのか、真剣に考えておかねばなりません。それによって卒業後の職種選択も明確になります。

将来設計を明確に 己を認識し伸ばす

最近はご存じの通り、わが国では飽食、偏食、運動不足の結果、生活習慣病になっている人がたくさんいます。死亡の原因となることが少なくありません。食事では、時には腹いっぱい食べることもありましょうが、常には腹八分目を心がけ、偏食をせず、定期的に簡単に計算できるBMIをはかり、健康であるよう気をつけましょう。

日本私立学校新興・共催事業団は加入大学の経営相談にのっていますが、破綻大学の学生諸君の卒業までの運転資金を保険金でまかない、保護することが必要で、その検討のため前述の事業団の中に"学校法人活性化・再生研究会"が作られ、大学同士の合併・吸収促進策も検討されています。本学は心配ありませんが、こんな時代であることを申し上げておきます。新しい年を迎え、皆さんの益々のご健勝とご活躍を祈念しご挨拶と致します。

CONTENTS

2・3面
日韓国際交流シンポジウム
NWミズーリ州立大学100周年記念式典
教員海外研修報告

4・5面
私の研究テーマ
教員の活動（05下半期）
お薦めBOOK

6面
キャリアサポート
企業懇談会
課外活動報告

7面
就職内定者の一言
卒論中間発表会
入試日程案内

8面
紅翔祭報告、みずき野クリーン大作戦報告
新潟中央キャンパスにイルミネーション
武藤学長が理事長兼務
湧源（編集後記に代えて）

日韓友情年 2005

日韓国際交流シンポジウム
「国際化時代における韓国語教育」を開催

本学主催の日韓国際交流シンポジウム「国際化時代における韓国語教育」が11月26日、新潟中央キャンパスで開催された。昨年は日韓国交正常化40周年にあたるため、日韓両国では「日韓友情年2005」として、多彩な行事が行なわれてきた。本学の行事もその中の一行事として、外務省内に設置された事務局（平山郁夫委員長）から友情年の記念事業に認定された。

両国の友好さらに深める

長い交流の歴史、シンポ開催を評価

金光圭 総領事

まず、1部の学術講演会では、武藤輝一学長が開会の挨拶を行なった。続いて、駐新潟韓国総領事館の金光圭（キム・カンギュ）総領事から祝辞を頂戴した。金総領事は「韓国と日本は隣国として長い交流の歴史を持っている」点を強調し、新潟県内における今回のシンポジウム開催の意義を高く評価した。

〈第一部・学術講演会〉

日本人は発音に苦手意識

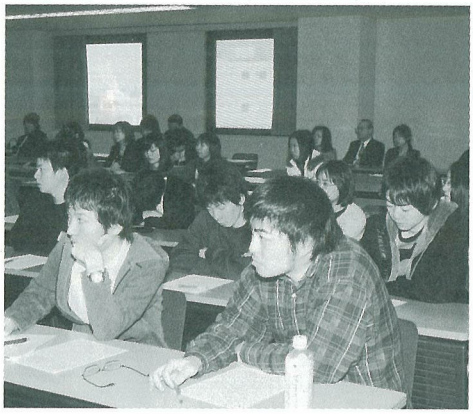
李定喜（イ・ジョンヒ）氏（韓国・慶熙大学国際教育院専任講師）

「韓国語学習に対する日本人学習者の認識調査」との題目で報告した。李講師は韓国語学習者に対するアンケート調査の結果を基に、慶熙大学国際教育院における現状を報告した。まず、中国と韓国の交流拡大に伴い、2004年度には中国人学生数が日本人学生数を越え、第1位となった。学習者の背景について、短期の語学研修ではなく、学部進学、大学院進学を希望する者が急増しているとした。また、日本人学習者が抱える韓国語学習の現状と問題点を指摘した。日本人の場合、文法面の理解は他国の学生に比較して短期間に習熟するが、発音、また発音の速度について苦手意識があるとした。

文法から対照へ5段階に研究

油谷幸利氏（同志社大学教授）

「韓国語研究と私」との題目で報告した。油谷教授は自らの35年におよぶ韓国語研究を振りかえった。時期別にすると5段階に分けられ、まず文法研究から始まり、次ぎが語彙研究、さらに情報処理に研究対象が移っていった。その後、情報処理を発展させたCALに注目し、現在は対照研究であるとした。油谷教授はCD－ROMを使って実際の韓国語学習状況を示し、聴衆の関心を引いた。



熱心にメモを取る参加者

文化教育の重要性を指摘

金重燮（キム・ジュンソップ）氏（韓国・慶熙大学国際教育院長）

「外国人が見た韓国文化」と題して報告した。通訳は、酒匂康裕氏（韓国・慶熙大学国際教育院専任講師）が担当した。金院長は外国人学習者が韓国文化を学ぶ際に奇異に感じる点を9点挙げた。結婚、激しい言葉使い、寄付文化、お酒文化、英語への強い関心、愛情表現法などについて、具体的な事例をあげながらユーモアを交えて紹介した。最後に韓国語を学ぶ上で、同時に韓国文化を学ぶ必要があるとし、韓国文化教育の重要性を指摘した。

新潟での韓国語の学習熱

波田野節子氏（県立新潟女子短期大学教授）

「新潟と韓国語」と題して報告した。波田野教授は、日韓交流の拡大につれ、新潟における韓国語学習者が急増しているとした。また、映画を使用した韓国語の授業形態を独自に開発し、大きな成果を挙げていることを語った。最後に、新潟と韓国、北朝鮮との関係を振り返り、今後とも新潟と韓国との交流はさらに密接になるだろうと展望した。

NWミズーリ州立大で創立100周年記念式典　市岡学部長が記念スピーチ

本学と派遣留学プログラムを提携しているノースウェストミズーリ州立大学（アメリカ）が創立100周年を迎えました。その記念式典に本学を招請、学長代理として市岡政夫学部長と同大学出身のG・ハドリー教授が11月18日の記念夕食会などに出席し両校の友好交流を深め、派遣留学生の授業参観などを行ってきました。

市岡学部長らは17日には現地メリーヴィル入り、早速ヒュッバード学長を表敬しました。同夜はタンタラで同州知事賞の授賞式があり、教育分野で優秀な実績を残した同大学が表彰されました。市岡学部長らは同大学関係者の一員としてレセプションや夕食会にも招かれました。

翌18日には同大学で創立記念夕食会が開かれ、市岡学部長がスピーチを行いました。スピーチは「両校は田園に囲まれた自然環境にありながら国際教育と異文化理解を重視している共通点があります。両校が始めた派遣留学プログラムは、より良い未来を築くための長い道程の一里塚であり、さらにこの道を共に歩み続け目標を達成しましょう」と呼びかけ、温かい歓迎の拍手を受けました。

市岡学部長の話「記念事業に本学の代表が参加したことで両大学の提携関係をより密接にし、派遣留学に対する本学の熱意を伝えることができました。ノースウェスト側からは教員派遣の意向表明もあり、今後は教員交換の実現も期待できると思います」

異文化への理解を深める

〈第二部・パネルディスカッション〉

本学の申銀珠助教授が第1部4氏の報告について、「外国語教育としての韓国語教育が持つ多面的な問題点を指摘し、教える立場、学ぶ立場から有益な報告だった。特に異文化に対する理解を深めることは、自国中心のナショナリズムを克服する道につながる」と結論付けた。これを受けて、報告者4氏に申助教授を加えた5人によるパネルディスカッションを行なった。

まず、パネリスト相互による質疑応答を行なった。教育方法や、教材、文化理解の項目など、具体的な例を挙げて意見交換が行われた。続いて、司会者から「韓国語教育を行なう上で難しい点は何か」との質問が投げかけられた。

生の韓国語に漬かった1日

金院長は「多国籍の学生たちが楽しく、安全に、有意義に学べる場を提供する点である」とし、李講師は「一つの教室に多文化を持った学生がおり、その文化的な背景を考慮しながら同一教材を使用する点だ」とした。また、申助教授は「学習熱を持続させる点である。留学生と接するなどして、意欲の低下に注意すべきだ」と答えた。

さらに、司会者から「国際化時代において韓国語教育の将来はどのようになるのか」との質問に対し、油谷教授は「国語としてではなく、外国語としての教授法を確立すべきである」とし、波田野教授も「韓国人のためだけの韓国語ではなく、外国人のための韓国語としての意識が必要である」と述べた。

フロアーからの質問も加わり、議論は白熱した。会場には、多くの本学学生、市民が参加した。本学学生にとっては、生の韓国語を長時間にわたって聞くことができる良い機会となった。市民の反応としては、「素晴らしかった」、「もっと時間を延長してほしかった」、「韓国語を学ぶ動機が強まった」などの声があがった。

学術交流、隔年で実施 次回は韓国で

本学と韓国・慶熙大学国際教育院との学術交流は、隔年で実施することになっている。次回の日韓国際交流シンポジウムは、韓国で開催される予定である。両校の交流の幅がより一層拡大し、そのことを通じて日韓両国の友好に寄与することを強く期待している。（情報文化学科・教授　広瀬貞三）

教員海外研修報告

カナダ・アルバータ大に6カ月 情報サービス関連企業をアンケート調査

情報システム学科・教授　高木義和

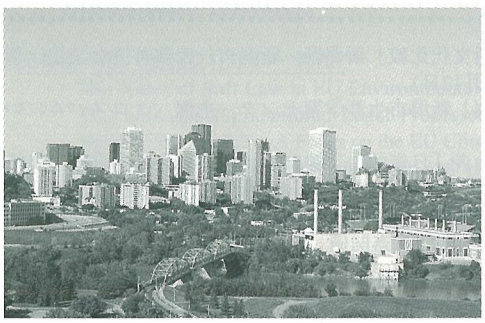
独自性の強いビジネスを展開 体質の違い、その原因は何か

2005年の4月から9月まで6カ月間、カナダ・アルバータ州エドモントンにあるアルバータ大学のエクステンション学部でVisiting Professorとして、情報サービス産業に関する調査研究を行ってきました。アルバータ大学は毎年情報システム学科が夏期研修を行っている大学です。

アルバータ州はバンクーバーのあるブリティシュコロンビア州の東隣にある州で、州境にはロッキー山脈が位置しています。北緯53度34分、西経113度31分にあり、日本の近くではサハリンの北の端になります。しかも標高668メートルの高地に位置するため冬はマイナス40℃にもなります。4月の初めに着いたときはまだ雪が消えた直後でした。研究室の空調はもちろん稼動しているものの、東向きの研究室は午後になるととても冷え込むのでセータを2枚着ていました。5月になると新潟よりさらに一斉に木の芽が出て花が咲き、一気にとてもよい季節になります。同時に大学は9月までの長い夏休みに入り学生の姿は一斉に見えなくなります。この時期まで研究は予定通り順調で、調査活動に向けた基礎資料の収集を行うことができました。

6月になると新緑になり、河川氾濫とともに短い夏が始まりました。7月は1年中で最も良い月で、7月1日のカナダデーを初めとして数多くのイベントが毎日のように街のどこかで行われており、歩道を多くの人が走り始めるとともに街が活気づいてきました。カナダの夏は8月だと思っていたのですが7月のようでした。

今回の調査研究のきっかけは、夏期セミナー科目である"北米社会と情報"の中で実施しているIT企業訪問でした。エドモントンのIT企業は日本と比べると明らかに小規模な企業が多いけれども、日本の情報サービス産業関連企業にくらべると独自性の強いビジネス展開を行っている企業が多いと強く感じられました。そこでこの体質の違いが実際に存在するのか、そして違いがあるとすればその原因は何かを明らかにするため、エドモントンの情報サービス関連企業について調査を行うことにしました。最初の研究計画では5月までに準備を終え6、7月に実地調査を予定しました。しかし準備をすすめるうち大学の名前を使って調査を行うにはこの調査のためのEthics（倫理規定）を作成し大学の倫理委員会から承認を得る必要があることが分かりました。この作業が想像以上に難解で結局7月の末まで2月間をこのEthicsの作成作業に費やすことになってしまいました。



エドモントンの美しい街並み

8月になり夏も終盤になったころ新潟から夏期セミナーの皆さんがエドモントンに到着しました。アザミやナナカマドなど秋の植物が目立ってくるようになり、夏期セミナーは実は秋期セミナーに近かったことが新しい発見でした。同じころEthicsの審査も終わりようやく調査に取り掛かることができIT関連の308社にアンケート用紙を発送しました。結果は42社（13％）から回答を受け取ることができ、内18社からインタビューの承諾を得ることができました。返答率13％は少ないように感じられますがエクステンションで行った類似の調査も同じ13％であったことから、Ethicsの中の返答率も13％を予定しており推定どおりの結果でした。

9月になると急速に秋になり、アパートの前にある木の葉がたった3日で黄色になり、1週間後には完全になくなってしまいました。9月の初めには緑だった木々が9月の終わりにはほとんど枯れ木になっていました。この短い秋とともに18企業のインタビューを開始し終了させることにしましたが、相手は小規模で忙しいIT企業が多いためアポイントをとるのに苦労しました。結果は1社を除いて無事インタビューを終えることができました。

ここで調査結果を詳しく書くことはできませんが、小さいけれど研究開発をしっかり行って自己責任で独自ビジネスにとり組んでいる様子を把握することができました。全ての企業が日本のベンチャー企業のようでした。結果については近い将来、学会誌等で発表したいと思っています。今回私の教員海外研修にご協力いただきました多くの皆さまに感謝致しております。

私の研究テーマ

「国際労働移動」

情報文化学科・助教授　長坂　格

1993年、フィリピン北部の山間部のある村で、私は、2カ月ほど前に知り合い、親しくなった村の長老のイロンさんと次のような話をしました。

「この村の歴史や文化、それから外国に行った人たちについて調べたいと思っています。ついては調査のためにあなたの家に下宿させてほしいのですが、どうでしょうか」「構わない。だけどお前は村の暮らしに耐えられるのか」これが、私のフィリピン人の国際労働移動についての調査（フィールドワーク）の本格的な始まりでした。

当時私は大学院生で、フィリピン大学に留学しながら修士論文のテーマを探していました。留学前は、いろいろと本を読んで「水利開発による村落組織の変化」というテーマを考えていました。しかし実際に留学して調査候補地を回っていると、村人が外国で貯めたお金で建てた立派な家に目を奪われました。そして人々が熱心にアメリカやイタリアにいる家族や親戚について話をするのを聞くうちに、フィリピンの人々がどうやって海外にいき、海外でどんな暮らしをしているのか、たくさんの人が海外に行くことによって家族、地域社会にどんな変化が生じているのか、そんなことを調べようと方向転換しました。

それ以来、イロンさんの家には20カ月ほど住みました。土地の言葉を覚え、人に話を聞く以外にも、田植えやたばこの収穫、結婚式やお葬式の準備などの手伝い、またお酒を一緒に飲むことなどを通して、村の日常生活や、社会、経済、文化の変化について調べました。また、イロンさんの子供たちが働くイタリアにも行き、そのアパートに居候させてもらい、彼らの海外での生活についても調べました。

現在は、これらの調査結果をまとめ、グローバル化する世界を普通の人々の日常生活の変化の中に読み取っていく、そんな本を書いているところです。

「働くことが楽しみの階層」

情報システム学科・助教授　小宮山智志

1991年、まだ大学生だった私は、たまたま社会調査の調査員をすることになりました。どんな人々がどのような仕事について、どのような所得・資産を得ているのか、それをどのように感じているのかといった「階層」についての調査です。91年はバブル期の熱気が残っており、ちょうど「一億総中流」と言われていた時代から、現在言われているような「不平等社会」「格差社会」への移行期でした。

調査員の仕事は、指定された対象者のお宅を訪問させていただき、面接調査を行うというものでした。まず私の両親に練習台となってもらったのですが、夫婦で違いはないだろうというお互いの予想に反して、全く違う考え方をしていて驚きました。実施の調査のときも、「こんな調査をしても回答はみんな同じだろう」とおっしゃっていましたが、それぞれの回答者の皆さんは、大変バリエーション豊かな回答をなさっていました。

私たちが「常識」と考えていることはなんて共有されていないのだろうか、そして同じような社会・暮らしを共にしていても、それぞれの考える「常識」の違いによって捉え方がまったく異なること、そしてそれに気がついていないことに、衝撃を受けたのを今でも新鮮に思い出せます。

現在は、どんな人が「楽しく働いて」いるのかを研究しています。楽しく働けること、それは得られる所得・資産と比べても引けをとらないほど重要なことではないでしょうか。多くの人々にお話をうかがいその「感じ方」を教えていただき、また職場・社会環境とお考えの関係を比較し、一人ひとりでは気づいていない「常識」とその影響を、統計学を用いて発見したいと考えております。

小林元裕（情報文化学科・助教授）
- 書評「山田豪一『満洲国の阿片専売－わが「満蒙特殊権益」の研究』」『日本植民地研究』第17号、69-75頁。

佐々木寛（情報文化学科・助教授）
- 評論「『暴力』と『コミュニティ』の諸相」『平和・コミュニティ研究』創刊号、唯学書房、167-176頁。
- 編集　高畠通敏『平和研究講義』岩波書店（2005年、総頁175ページ）。
- 「９条佐渡市民ネットワーク」結成記念講演「９条改正で日本はどう変わるのか？」（佐渡市、6月24日）。
- 対談　樋口恵子「一人ひとりが輝く21世紀へ―男女共同参画に生涯チャレンジ」にいがた女性会議主催（本学新潟中央キャンパス、10月29日）。
- 講演「憲法９条と平和を考えるつどい」市民生協にいがた主催（新潟市、12月9日）。

長坂格（情報文化学科・助教授）
- 評論「パリのフィリピン人」『アジア遊学』81号、180-192頁。

広瀬貞三（情報文化学科・教授）
- 講演「韓国の歴史」新潟市生涯学習センター主催（クロスパルにいがた、9月8日）。
- シンポジウムコーディネーター「拉致問題を考えるシンポジウム―日本海にかける新潟県民の願い」新潟県庁主催（新潟市音楽文化会館、9月10日）。
- 講演「日韓の生活文化比較」新潟県・新潟市日韓親善協会主催（新潟東映ホテル、9月12日）。
- 講演「韓国の財閥」新潟市生涯学習センター主催（クロスパルにいがた、9月13日）。
- シンポジウム討論者「日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会出帆１周年記念国際シンポジウム」韓国・日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会主催（韓国・グランドヒルトンホテル、11月10日）。

藤瀬武彦（情報システム学科・教授）
- 講演「健康づくりのための筋力トレーニング(初心者向け)」平成17年度第2回健康運動指導士・健康運動実践指導者登録更新講習会（新潟県健康づくりセンター、8月9日）。
- 講演「健康づくりと運動プログラム」平成17年度健康運動実践指導者養成講習会（新潟県健康づくりセンター、10月12日）。
- 講演「補強運動の理論と実際」平成17年度健康運動実践指導者養成講習会（新潟県健康づくりセンター、10月19日）。

武藤輝一（学長）
- 評論「総説:医師への戒めの言葉」『W' Waves（日本癌病態治療研究会雑誌）』11巻1号、16-18頁。
- シンポジウム特別発言「医療関連死を考える」第67回日本臨床外科学会総会（特別シンポジウム1）（新高輪プリンスホテル・国際パミール館、11月9日）。

お薦めBook

本学図書館のWEBサイトに個性あふれる教員たちの紹介文が載っています。アクセスしてみてください。
〈http://www.nuis.ac.jp/ic/library/book/book2005.htm〉

「アメリカ文学のレッスン」

柴田元幸著
講談社現代新書（2000年）735円

昨年『アメリカン・ナルシス』でサントリー学芸賞を受賞した自称「生半可な学者」、他称「翻訳の天才」による、生半可ならぬアメリカ文学への誘い。

新書なので値段とページ数は軽量、語り口も軽妙だが、「名前」「食べる」「幽霊の正体」といったキーワードのもとに、アメリカ文学の古典から現代作品までが縦横に論じられ、引用はすべて柴田訳という、1冊で2度おいしい贅沢な仕上がり。「翻訳は自己消去」が著者の持論だが、ここにはまぎれもない柴田ヴォイスが響く。

「ハックがハックでなくなることによって成立」する『ハックルベリー・フィンの冒険』から語り始め、「世界は翻訳だ」と言い切るリチャード・パワーズを引いて、アメリカ文学の「消費」にとどまらない新しい「翻訳」法のレッスンを、と語り終える本書は、みごとに自己言及的であり、日本のアメリカ文学研究への批評ともなっている。

（情報文化学科・助教授　矢口裕子）

「蝶の舌」

マヌエル・リバス著・野谷文昭・熊倉靖子訳
角川書店（2001年）1000円十税

皆さんはスペインの内戦を知っていますか。この本は、ガルシア地方の小さな町の、グレゴリオ先生と、スズメ少年一家の温かい交流の話です。ただ、あの日までは。

少年は先生から、ゼンマイのようになっている「蝶の舌」のことや、巣を植物の絵貝で飾る鳥「テイロノリンコ」のことなど興味を惹く多くのことを学びます。

あの日、フランコに率いられた軍隊の蜂起があり、共和派である先生は捕まり連行されます。町の人たちは昨日まであんなに親しかったのに、自分を守るため全員で連行される共和派に罵声を浴びせます。「裏切り者」「犯罪者」「アカ」。

母親も少年に「あなたも何か言いなさい」といいます。そこで少年が叫んだ言葉は……。短編集だから簡単に読めます。

（情報システム学科・教授　樋口光明）

教員の活動（2005年下半期・本人申告による）

1）研究論文・図書

小澤治子（情報文化学科・教授）
- 「ロシアの外交戦略と米国のユニラテラリズム―イラク戦争をめぐる米ロ関係を中心に」『ロシア・東欧研究』第33号、36-46頁。

2）学会・研究会報告

青淵正幸（情報システム学科・助教授）
- 「企業の手元流動性と市場の評価」日本会計研究学会第64回大会（関西大学、9月15日）。

安藤潤（情報文化学科・助教授）
- 「Bailey=Barroによる「有効消費」論－政府支出が民間消費に与える影響－」諏訪ゼミＯＢ研究会（明治大学駿河台校舎、6月25日）。
- 討論者 Myint San. 'Political Economy of Military Expenditure in Myanmer : Prospects and Challenges' 日本経済政策学会第4回国際会議（淡路夢舞台国際会議場、12月18日）。

臼井陽一郎（情報文化学科・教授）
- 'The Roles of Soft Law in EU Environmental Governance: Bridging a Gap between Supranational Legal Processes and Intergovernmental Political Processes? -- A Focus on the EU Climate Change Strategy' The UACES 35th Annual Conference and 10th Research Conference: The European Union: Past and Future Enlargements. Research Panel: 'Policy-Making: Environment and Agriculture' (University of Zagreb, 5-7th September, 2005).
- 'New Modes of Governance and the Climate Change Strategy in the European Union: Implications for Democracy in Regional Integration' The CREP 1st International Workshop: Designing the Project of Comparative Regionalism (ISS, University of Tokyo, 12-13th September, 2005).
- 'The Roles of Soft Law in EU Environmental Governance: An Interface between Law and Politics' The EUSA-Japan 26th Annual Conference: The EU and Governance (Kyushu University, 12-13th November, 2005).

區建英（情報文化学科・教授）
- 「厳復の自由観と個人の公共精神」『天演論』翻訳110周年記念―「厳復と天津」国際学術シンポジウム（中国・天津　南開大学歴史学院、10月29日～11月1日）。

越智敏夫（情報文化学科・助教授）
- 'Communitarian Liberalism in America and Conservative Political Thought and Discourse in Japan' American Political ScienceAssociation,

佐々木桐子（情報システム学科・講師）
- 「経営工学におけるe-Learning教材を用いた動機付け教育」全国大学IT活用教育方法研究発表会（アルカディア市ヶ谷、7月）。
- 「経営工学におけるシミュレーション技術の活用方法および教育方法」日本経営教育学会第２関東部会（新潟国際情報大学、8月）。
- 「大学連携によるe-Learning教材の共同開発および共同利用の取組み」日本オフィス・オートメーション学会（大阪成蹊大学、11月）。

佐々木寛（情報文化学科・助教授）
- 「安全保障問題の多元化・重層化と『市民の安全保障』」（立教大学、10月28日）。

長坂格（情報文化学科・助教授）
- 'The Contemporary Rural-Urban Linkages: A Case of the Philippines' International Science Conference: Urbanization and the Formation of Ethnicity in Southeast Asia (Vien Dong Hotel, Ho Chi Minh City, 8-9th August, 2005).
- 'Child Care in the Era of 'Perpetual Contact' : Mobile Phone Use by Japanese Housewives' International Conference on Mobile Communication and Asian Modernities II (France Telecom Research and Development Beijing, Beijing, 21-22th, October, 2005).

藤瀬武彦（情報システム学科・教授）
- 「皮下脂肪厚及び体周囲に及ぼす高酸素トレーニングの効果」日本体育学会第56回大会（筑波大学、11月24日）。

山田尚史（情報システム学科・講師）
- 「ｅコマース市場において低価格に歯止めがかかるプロセスについての考察」経営情報学会2005年秋季全国研究発表大会（中村学園大学、11月22日～13日）。

3）その他

青淵正幸（情報システム学科・助教授）
- 「日本会計研究学会第64回大会報告」『JICPAジャーナル』第17巻第12号、第一法規、72-73頁。

越智敏夫（情報文化学科・助教授）
- シンポジウムパネリスト「メディアと真実～失われた想像力を取り戻すために～（映像作家・森達也氏との公開討論）」主催：新潟日報社、新潟・市民映画館　シネ・ウインド（日本アニメ・マンガ専門学校ＪＡＭ２号館、11月23日）。

キャリアサポート

就職環境の多様化に対処

今年度から新規科目「キャリア開発1・2」がスタートしました。この「キャリア開発」はいろいろな人の人生（就職）経験等の実例を挙げながら、講義形式とテーマ毎に4人でグループワークを行なう、学生参加型の演習が特徴です。2、3年次生の95％が履修し、多くの学生が意欲的に出席しました。

意欲的にグループワーク参加 目標や展望をしっかりと育成

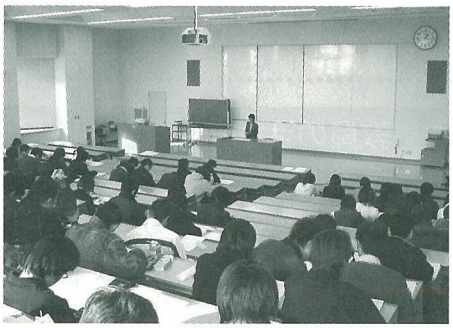
始めは、グループワークに戸惑いながらも、回数を重ねるにつれて各自が相手を見つけ自分の意見を述べたり、相手の意見を聞いたりしながら積極的にグループワークを行なっていました。3年次生からの授業評価は極めて高いものでした。

「キャリア開発」をスタートした背景には、就職活動の早期化・長期化、卒業後の雇用形態の多様化などがあります。さらに採用基準がバブル経済崩壊後、量より質に変わってきたことなど、社会環境が大きく変化してきています。それと、将来への目標等を持たないまま進学をしてくる学生が多くなってきていることから、3年次生からでは充分な就職指導ができなくなってきたため、新たなサポートとして始めることとなりました。

本学としては、この「キャリア開発」を通じて、自己理解やコミュニケーション能力と新しい価値観を受け入れるための土台作りを身につけてもらい、大学生活の中で学んでいる学問と融合しながら、加えて課外活動、ボランティア活動、アルバイト等のさまざまな経験がキャリアの一部であることも伝え、そして、学生が今まで以上に自分自身と向き合いながらキャリア（人生）について、目標や展望を持ち、日々の大学生活を過ごしてほしいと願っています。

この他、1年次生にも年2回就職ガイダンスを実施しています。このようなサポートを通じて、有為な人材育成に取り組んでまいります。

就職指導委員長
情報システム学科・教授　大竹康夫



新規科目に意欲的に参加

懇親会で情報交換

企業懇談会、最大の規模で開催

内橋克人氏が特別講演「急変する企業環境」

本学の企業懇談会は、学生の就職活動支援の一環として企業の代表者や人事担当者を招き、本学を理解いただくと同時に、採用等に対する「感謝の集い」として毎年秋に開催しています。

今年は、第10回目を迎え11月2日、ホテル新潟で開催し、県内外から208社（273人）あまりの企業の代表者や人事担当者に参加いただき、節目にふさわしい過去最大の規模で開催することができました。

同日は、特別講演として経済評論家・内橋克人氏を招き「急変する企業環境～新しい成長モデルを考える～」についてご講演いただきました。

第2部は会場を移し小澤辰男理事長が参加者に謝辞の後、セコム上信越社長・野沢慎吾氏の乾杯ご発声をいただき、懇親会が開かれました。本学の教職員は企業の方々と積極的に情報交換し、交流を深めました。

課外活動報告（一部抜粋）

期間	団体名	大会名	大会結果
4月 8日 ― 10日	バドミントン	第49回北信越大学バドミントン選手権大会	男子団体3位
4月16日 ― 17日	バスケットボール	第59回近県バスケットボール選手権大会	
4月23日 ― 24日	陸上競技部	第34回柏崎陸上競技選手権大会	
4月28日	サッカー	第29回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北信越大会	
4月30日 ― 5月1日	陸上競技部	第73回上越陸上競技選手権大会	4×400R片桐・小林・武田・井畑2位
5月 3日 ― 4日	陸上競技部	第55回中越陸上競技選手権大会	4×400R岡田・栗原・武田・井畑優勝
5月 3日 ― 5日	バスケットボール	第39回笹本杯争奪北信越学生バスケットボール春季リーグ戦	3部A優勝　2部昇格
5月 8日	フィットネス研究部	第30回新潟県ベンチプレス大会	
5月12日 ― 15日	男子バレーボール	第36回春季北信越大学男女バレーボール選手権大会	2部4位
5月16日 ― 21日	バドミントン	第54回中部大学バドミントン選手権大会	男子団体ベスト4
6月 3日 ― 5日	硬式野球	第76回都市対抗野球第一次新潟県大会	ベスト4
6月 4日 ― 5日	ESS	Freshman Discassion In NAGANO 2005	
6月11日 ― 12日	陸上競技部	第27回北日本学生陸上競技対校選手権大会	
6月16日 ― 20日	硬式野球	第30回全日本クラブ野球選手権北信越大会	
7月 3日	フィットネス研究部	第17回JAWA全日本ジュニアアームレスリング選手権大会	
7月22日 ― 24日	陸上競技部	平成17年度新潟県陸上競技選手権大会	棒高跳び 野村栄一 4位
7月24日	フィットネス研究部	第5回東日本アームレスリング選手権大会	
8月20日 ― 21日	陸上競技部	第60回国民体育大会新潟県予選会	棒高跳び 野村栄一 2位
8月27日 ― 28日	陸上競技部	第49回北陸陸上競技選手権大会 兼 第90回日本陸上競技選手権大会地域予選会	
8月30日 ― 9月6日	バドミントン	第45回西日本学生バドミントン選手権大会	
9月11日	フィットネス研究部	第14回新潟県アームレスリング選手権大会 兼第23回全日本アームレスリング選手権大会代表選考会	藤村太一郎ビギナーライト―75kg2位、細田敦史ビギナーレフト―75kg3位、山本浩之県大会男子ライト―75kg3位、同レフト―75kg3位
9月17日 ― 18日	バスケットボール	第53回北陸バスケットボール選手権大会	
9月23日	男子バレーボール	第41回秋季市民総合体育祭バレーボール大会	3位
10月 1日 ― 2日	男子バレーボール	第24回信越大学バレーボール大会	男子団体3位
10月 1日 ― 2日	ESS	Oratorical speech contest	
10月 2日	バスケットボール	平成17年度新潟県バスケットボール選手権大会 兼 全日本総合バスケットボール選手権大会新潟県予選会 兼 第25回北信越総合バスケットボール選手権大会新潟県予選会	
10月13日 ― 16日	バスケットボール	第39回北信越学生バスケットボール選手権大会兼インカレ予選	
10月14日 ― 20日	バドミントン	第56回秩父宮・秩父宮妃杯争奪全日本学生バドミントン選手権大会	0-2小林・山平（法政大学）インカレ2年連続出場
10月15日 ― 16日	陸上競技部	第36回北信越学生陸上競技選手権大会	棒高跳び 野村栄一 2位
10月27日 ― 29日	バドミントン	第50回北信越大学バドミントン選手権大会	女子1部3位、男子1部残留
10月27日 ― 30日	女子バレーボール	第53回秋季北信越大学男女バレーボール選手権大会	
10月27日 ― 30日	男子バレーボール	第53回秋季北信越大学男女バレーボール選手権大会	2部3位
11月13日	バドミントン	第53回田村杯争奪 兼 第18回市嶋楯争奪バドミントン大会	村田女子シングルベスト4、ダブルス準優勝（ペア部外者）
11月26日 ― 27日	バドミントン	第10回藤田修一杯争奪新潟県学生バスケットボール選手権大会	4位入賞、大桃慶太が優秀選手に選出
11月27日	フィットネス研究部	第3回新潟県オープンパワーリフティング選手権大会	
12月 1日	邦楽部	演奏ボランティア	新潟学園にて琴の演奏
12月 9日 ― 11日	バドミントン	第12回北信越学生バドミントン新人選手権大会	

内定者の一言

自分自身を見つめ直す

情報文化学科4年　**細野　雅美**　内定先：丸三証券（株）

たくさんお話したい事はありますが、一番大事だと思ったのは次の2つです。

①職種・業種に関係なくさまざまな企業を知ること。

私が就職活動を始めたのは昨年の12月ですが、最初はとにかく多くの説明を聞く事に専念しました。いろいろな企業の方々と接する事により、その会社の雰囲気や理念が自分のやりたい事と一致するかどうかが少しずつ分かるようになりました。

②自分の今の状況や気持ちを話せる人を確保すること。就職活動は自分との戦いです。孤独にならないように家族、友人、先生と情報交換をし、話し合って考えを整理しました。また、就職課には大変お世話になりました。ただ感じたままに話しただけだったのですが、多くの不安要素が次々と消えていきました。就職課は私にとって、一種のカウンセリングの場だったのかもしれません。

この2つによって、自分が今まで気にも留めていなかったことに興味を持ち、また、新たな自分を発見することができました。

さて、就職活動中によく問われたものがあります。「自分の長所、短所を踏まえた自己PR」、「今までに最も打ち込んだ事、最も感動した事」、「自分の強みをその企業でどう活かせるか」。つまり自分が今まで何をしてきたか、そして今後どうしたいのか、これらを踏まえ、ここで新たに自分を見つめ直すことが就職活動を始める第一歩になるのではないでしょうか。

自分の足で企業を確認

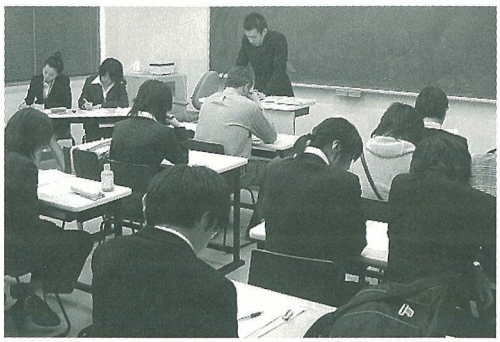
情報システム学科4年　**八幡　賢**
内定先：東日本旅客鉄道（株）

私が本格的に就職活動を始めたのは、3年次の9月ころでした。学内での就職ガイダンスには毎回参加していましたが、実際に行動しないことには何も分からないので、早い時期から、さまざまな企業のホームページを見たり、就職サイトを見るようにしたりして、就職活動へのモチベーションを高めていきました。

自分がやりたい仕事は明確になっていなかったし、自分のまだ知らない仕事は多くあるのではないかと思い、県内で開催された合同説明会には全て参加し、より多くの企業の話を聞くようにしました。就職試験も回数を重ねたほうが自分の力になると思い、多くの企業を受験しました。その結果として、数社から内定を頂くことができ、納得のいく就職活動を行うことができました。

多くの企業の話を聞くこと、会社訪問をして会社の内部を見ること。このような経験は、人生の中でも、就職活動を行っているこの時期だけしかできないことだと思います。自己分析や筆記試験対策も重要ですが、それ以上に、自分の足で動いて、自分の目で、希望する会社を実際に見て、多くの情報を得ることはもっと重要だと思います。積極的に動いて、悔いの残らない就職活動を行ってください。

緊張感が伝わった発表会



卒論中間発表会開く

先輩の緊張伝わる　多くのアドバイス参考に

実行委員会代表
情報文化学科3年　**小山智栄子**

私は今回、初めて情報文化学科卒業論文中間発表会に参加しました。スーツ姿で発表を控えた先輩方の緊張は、見ている私にも伝わってきました。

発表会は、自分の発表直前まで入念に準備をしている人、発表時間が大幅に余ってしまった人、先生方からのアドバイスを熱心に書き留めている人など、さまざまでした。そして、一年後には自分が発表する立場なのだと、私は先輩方の姿に自分を重ねて見ていました。

厳しい意見が飛び交う場面では、来年私にこれが乗り切れるのだろうかと不安にもなりました。しかし、それらのアドバイスや発表生の話し方は、これから卒論を作り上げていく過程において、どれも本当に参考となりました。

閉会式で、発表を終えた安堵の表情で広瀬先生の総評に聞き入り、発表生へのアンケートで決定する優秀発表者の結果発表を聞く先輩方を見ていて、今回の中間発表会は盛り上がりをもって終えることができたのではと思いました。

■平成18年度　入学者選抜試験概要（要約一覧）

入試区分		募集人員		出願期間	試験日	試験地	試験実施教科・科目	合格者発表日
一般入試	前期	情報文化学科 35	95	18年1月6日（金）～18年1月20日（金）※出願期間内消印有効	18年2月2日（木）	新潟上越	・国語：国語総合（現代文）・現代文 ・数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ（数学Ⅱは、微分・積分を除く） ・外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択	18年2月7日（火）
		情報システム学科 60						
	大学入試センター試験利用	情報文化学科 15	35	18年2月1日（水）～18年2月15日（水）※出願期間内消印有効	18年1月21日（土）、22日（日）の大学入試センター試験を受験していること		学科試験を課さず、18年度のセンター試験の成績で判定。全教科の中から2教科2科目選択 配点：各教科100点。 （3科目以上受験した場合は高得点の2教科2科目を合否判定に使用）	18年2月24日（金）
		情報システム学科 20						
	後期	情報文化学科 10	25	18年2月17日（金）～18年3月2日（木）※出願期間内消印有効	18年3月8日（水）	新潟	・国語：国語総合（現代文）・現代文 ・数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ（数学Ⅱは、微分・積分を除く） ・外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択	18年3月11日（土）
		情報システム学科 15						

（注）情報文化学部の定員は、情報文化学科100名、情報システム学科150名、合計250名です。

新潟国際情報大学　学費特別給付奨学金

一般入学試験（前期）の成績により奨学金が給付されます。
※予め、申込が必要です。

情報文化学科	3番以内―Ⅰ種	8番以内―Ⅱ種
情報システム学科	5番以内―Ⅰ種	14番以内―Ⅱ種

（Ⅰ種　授業料全額（年額675,000円）
Ⅱ種　授業料半額（年額337,500円））

◎入試と奨学金の詳細については事務局までお問い合わせ下さい。　TEL025-239-3111　E-mail gakumu@nuis.ac.jp

紅翔祭を終えて

紅翔祭実行委員長　児玉　幸花（情報文化学科2年）

絆は固く深まった
強風で模擬店は断念

10月22日23日に開催された紅翔祭は、皆さまのご協力により無事に終了することができました。

2日目は、強風のため模擬店の出店を断念せざるを得なくなり、事前から準備してきた団体にとってはとても残念な結果になってしまいました。父母会とみずき会のご後援をいただいている恒例の文化講演会は、元NHKアナウンサーで有名な鈴木健二氏を招き、体育館いっぱいの人たちが「感動ある生き方を求めて」と題したユーモアあふれる講演に聞き入りました。また、みずき会が企画した大学周辺のクリーン作戦には在校生も多数が参加し大きな成果を収めました。

皆さんは今回の紅翔祭のメインテーマである「絆」を深めることができたでしょうか。

実行委員長の仕事は、何もかもが初めてのことで戸惑う場面も多くありました。最後まで自分を支えてくれた友人たちに対して感謝の気持ちでいっぱいです。まさに今回のテーマである「絆」が深まったと思います。今となれば、実行委員長をしたことは、勉強にもなり、とてもいい思い出です。われわれ学友会は紅翔祭で学んだことを生かし、今後もさらなる飛躍を目指し精進していきます。

最後になりましたが、紅翔祭にご協力くださいました教職員・保護者の方々、企業の方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

みずき野クリーン大作戦

イルミネーションで冬を演出
――新潟中央キャンパス・ゆうあい公園

新潟中央キャンパスの一角、柾谷小路に面した「ゆうあい公園」がイルミネーションで輝いて、新潟市中心街を行き交う人たちに親しまれています。

このミニ公園は、本学創立10周年記念事業の一環で中央キャンパス開設の折に市と共同で設置、中心街の新しい市民憩いの場となりました。毎年12月1日から1月15日の間、市民の目を楽しませていますが、昨年末は早い寒波と雪の訪れでいっそう美しく輝いていました。

キャンパス1階にはカフェテリアもあって親しまれ、2階の一般開放されている情報・図書室も人気のコーナー。エクステンションセンターのオープンカレッジ(公開講座)も徐々に充実して多くの方々に利用され、市民・地域との交流が広がっています。

武藤学長が理事長兼任
小澤前理事長は学院長に

本学を運営する新潟平成学院は12月の理事会で、同22日に任期満了となった小澤辰男理事長の後任に武藤輝一学長の就任を決めました。学長は理事長を兼任し、理事長の任期は2年間となっています。

小澤前理事長は学院の顧問役の学院長に就任しました。1993年の本学創設時から理事長を務め、98年から2年間は学長も兼任しました。武藤理事長は新潟大学長、長岡赤十字病院長などを経て2000年から学長を務めています。

湧源 YUUGEN
編集後記に代えて

広報委員長　永井　武

新年おめでとうございます。

正月の朝は、元旦マラソンを見ます。厳しい練習を重ねてきた選手たちの力走は、見るものに感動を与えてくれます。人類は400万年前に地球上に現れてからつい100年前まで交通機関はなく、ごく一部の人を除いて多くの人は自分の足で歩くほかなく、自然に体を動かしていました。今の日本は車社会となり、人々は体を動かさなくなりました。

その結果、国民は生活習慣病と呼ばれる高脂血症、高血糖、高血圧、肥満、腰痛などに悩まされ、医療費は年間30兆円を超えています。学生の皆さんには、バトミントン、テニス、卓球など好きなスポーツを楽しめるレベルまで上達して卒業してほしいと思います。

それは、人生の宝物です。楽しみながら体を動かし、健康増進につなげます。社会に出てからのスポーツ仲間との横のつながりは、仕事の役に立つことさえあります。マラソンほど孤独で厳しいスポーツでなくても、長続きするスポーツを学生時代に見つけてほしいのです。

元旦マラソンを見ながら、そのようなことを感じました。